

平成27年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委 員 会 名	総務文教委員会		
参 加 委 員	◎池田総一郎 ○半田大介 金子和夫 井沢信章 三井和哉 西沢逸郎 久保田由夫		

◎委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

「子ども大学かわごえ」は、全国初のユニークな取り組みであり、各種の表彰を受賞していることが事前調査で分かった。上田市内には短期大学を含めて4つの大学があることから、「子ども大学かわごえ」の取り組みを参考にした施策展開ができないかどうか検討するために行政視察を行いました。

2 実施概要

実 施 日 時	視 察 先	埼玉県川越市
平成27年7月28日(火) 13時30分～15時	担当部局	教育総務部地域教育支援課
視察事業名	子ども大学かわごえについて	
報 告 内 容	1 視察先の概要 ・人口は、約34万2千人（上田市の約2倍） ・面積約109km²（上田市の約5分の1） ・「川越」の地名の由来は、川を挟んで両岸が発展したため、「川を越えてひとつの地域がある」との意味からともいわれる。 ・武蔵野台地の東北端、首都30km圏に位置する。明治期は県内一の商業都市。60年代から工業が集積。道路と鉄道が放射状に広がる交通の要衝。2003年から中核都市となる。 2 視察先の特徴 「子ども大学かわごえ」は、「NPO法人こども大学かわごえ」が運営している。この「NPO法人こども大学かわごえ」は、2008年に設立。2011年度埼玉NPO大賞の優秀賞を受賞。2012年公益財団法人博報児童教育振興会から博報賞、同年地域づくり総務大臣表彰を受賞するなど多数。「NPO法人こども大学かわごえ」は、各方面から高く評価されている。	

川越市教育委員会は、できる範囲での協力となっている。視察は、川越市役所において行ったため、「NPO法人こども大学かわごえ」の事務所等は出向いていない。事業の内容について、パワーポイントをつかってNPO法人の酒井理事長から説明を受けた。川越市教育委員会担当職員にも同席してもらい、質問等に対応してもらいました。



子ども大学かわごえ理事長 酒井一郎氏

3 視察事項について

＜教育改革の必要性を強く感じていたことがベースにあり、「子ども大学かわごえ」は、地域との協働による教育改革との位置づけ＞
◇「子ども大学かわごえ」を始めたきっかけが、ポイントの一つです。それは、酒井理事長が現在の日本の教育のやり方に疑問を感じており、教育改革の必要性を強く感じていることがベースにありました。

（酒井理事長）以前のことだが、イギリスのブレア首相は、これからのイギリスの戦略で何が大事かという、第1位が教育、第2位が教育、第3位が教育といって、教育の重要性を強調した。私は、日本でも同じではないかと思った。

従来の日本教育は、詰め込み型、模倣型できたわけですが、その結果失われた20年、それ以上になっている。これからは、創造的で、未来志向型でなければならない。教育委改革には様々なやり方があるが、その一つがドイツで始まった「こども大学」です。

「こども大学」は、ドイツのチュービンゲン大学で2002年に始まった。大学の先生が子どもたちにボランティアで教える「子ども大学」は、子どもたちの爆発的な人気により、わずか6年ほどでドイツ中心にヨーロッパ各都市に100校近い子ども大学が開校された。

このドイツの「子ども大学」の情報をインターネットで調査し、「子ども大学」の教育システムが日本の小学校教育を補完するものとして優れた特長を持っていることがわかった。まだ、日本ではどこでもやっていないことが不思議だった。2007年5月に「子ども大学」設立の構想を抱き、教育哲学の専門家で東京国際大学副学長の遠藤克弥さんに相談をして、二人が意気投合して設立の準備が始まった。

「子ども大学構想研究会」（2007年末）から「川越こども大学を

つくる会」(2008年2月)、2008年9月末に「NPO法人子ども大学かわごえ」設立総会を開いた。同年12月に「子ども大学かわごえ開校記念シンポジウム」を開催し、教育理念を公表した。2009年2月から第1期生を募集、定員50人に対して3日間で120人の応募があったため、予定を変更して(一部調整)116人全員を受け入れスタートした。

＜「子ども大学かわごえ」の教育理念は、「子どもの『なぜ』に答える授業＞

◇次のポイントは、「子ども大学かわごえ」の教育理念です。

具体的には、次の三つ

- ① 「子ども大学かわごえ」は、未来志向型を考える教育を実施する
- ② 「子ども大学かわごえ」は、わが国初の本格的子ども大学です。
- ③ 「子ども大学かわごえ」は、一般市民、小学校教員、産業人、行政職員など地域のボランティアが結集して作った市民立大学であり、地域の落とし子です。

＜具体的な教育活動3分野＞

- 「はてな学」→純粋科学的な「なぜ」を追求する
 - ・正規授業と遠隔授業を展開
- 「生き方学」→キャリア教育
 - ・ミニかわごえ ・ものづくり教室 ・生きる力を測定しよう
- 「ふるさと学」→郷土を知り地域に貢献する
 - ・かすみ教室 ・まつやま分室 ・川越ブランド
 - ・少年少女合唱団 ・農業体験学習 ・理科教育支援

＜具体的な授業・実績など＞

○学生募集は、「NPO法人こども大学かわごえ」が印刷物とEメールで行う。最初は、川越市と鶴ヶ島市の教育委員会の協力で学校を通して、1万1千人部配布してもらった。

○対象は、小学4年生～6年生。

○正規授業は、月一回の授業で、協力してくれている市内の大学内(三つの大学)で実施する。東松山市には「子ども大学の分室」があり、インターネット中継授業もした。

○講師は、現役の大学教授で、テーマや講師選びはNPO法人が行う。

○テーマ

第一回 「なぜ飛行機は飛ぶことができるのか」(東洋大学理工学部教授 望月修)

	第三回 「なぜいのちを奪ってはいけないのか？」(尚美学園大学総合政策学部教授 五十子敬子) 第五回 「なぜ電車の座席はすみからうまるのか？」(東京国際大学人間社会学部教授 角山剛) ○授業の具体的な方法 土曜日の午後２時から４時までの間、５０分授業を２回行う。 これを年間１０回程度実施。これを正規授業と呼び、１８０人の学生（小学４～６年生）と１００人近い保護者が一緒に聴講する一方向授業です。 正規授業は、年度ごとに主テーマを決めている。２３年度は「宇宙」と「国際」であった。２４年度は、「研究開発」と「国際」。 ○学生数 <table> <tr> <td>第一期生（平成２０年度）小学３～６年</td><td>１１６人</td></tr> <tr> <td>第二期生（平成２１年度）小学３～６年</td><td>１００人</td></tr> <tr> <td>第三期生（平成２２年度）小学３～６年</td><td>１７２人</td></tr> <tr> <td>第四期生（平成２３年度）小学３～６年</td><td>１８３人</td></tr> <tr> <td>第五期生（平成２４年度）小学３～６年</td><td>１８４人</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>７５５人（年度平均１５１人）</td></tr> </table> <ＮＰＯ法人の財務など> 年間予算 ３７５万円（平成２３年） 収入の構成 授業・講習料３５％ 寄付金（企業と個人）２５％ 会費１５％ 団体助成金１３％ 記念誌積立他１２％	第一期生（平成２０年度）小学３～６年	１１６人	第二期生（平成２１年度）小学３～６年	１００人	第三期生（平成２２年度）小学３～６年	１７２人	第四期生（平成２３年度）小学３～６年	１８３人	第五期生（平成２４年度）小学３～６年	１８４人	合計	７５５人（年度平均１５１人）
第一期生（平成２０年度）小学３～６年	１１６人												
第二期生（平成２１年度）小学３～６年	１００人												
第三期生（平成２２年度）小学３～６年	１７２人												
第四期生（平成２３年度）小学３～６年	１８３人												
第五期生（平成２４年度）小学３～６年	１８４人												
合計	７５５人（年度平均１５１人）												
考 察 （まとめ：市政に活かせると思われる事項等）	酒井理事長は、「子どもたちよ、将来ノーベル賞を受賞してください」との強い思いがこの事業を進めていく大きな土台となっていると感じました。理事長の思いに応えて協力している協力大学や教授陣の皆さんが「子ども大学かわごえ」を支えています。県知事が視察に来て、埼玉県教委を通じて埼玉県内には急速に「子ども大学」が広まっているようです。「私たちは、子ども大学が全国に広まることを期待しています。そして、『日本子ども大学連盟』を結成していきたい。」とのこと。 上田市でも「子ども大学」の取り組みについて情報発信を行うことで、次なる一歩につながることを期待しています。												



視察の様子



川越市役所前にて

※視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと

平成 27 年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委 員 会 名	総務文教委員会
参 加 委 員	◎池田総一郎 ○半田大介 金子和夫 井沢信章 三井和哉 西沢逸郎 久保田由夫

◎委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

上田市では地域資源を全国にアピールし、知名度や好感度を上げ都市間競争を勝ち抜き、また地域の活性化を図るため、平成 26 年 7 月 1 日、政策企画局(現政策企画部)に「シティプロモーション推進室」を設置した。

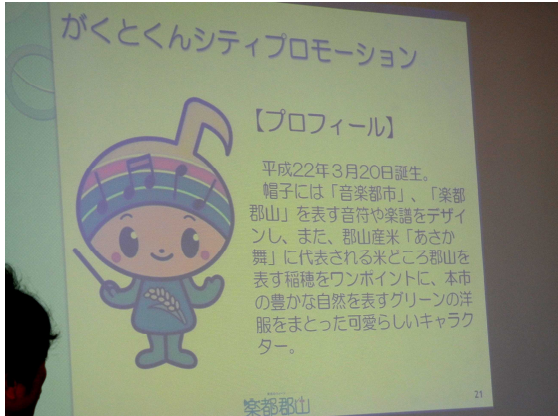
設置してからの期間が短いのと、事務内容が

- ①「人、食、文化、産業、情報」を活用し、人口増加策と空き家対策を含めた「移住・交流・定住促進の推進」
- ②NHK 大河ドラマ「真田丸」放送に伴う観光客の受入体制の構築と地域画への PR 活動
- ③新幹線金沢延伸に伴う沿線都市との交流及び観光施策の推進
- ④ラグビーワールドカップや東京オリンピック等の国際大会におけるキャンプ地誘致
- ⑤浅間山麓・菅平高原エリア高地トレーニング構想の推進
- ⑥観光客を迎え入れるための、市民・民間企業・NPO・関連機関等との協働体制の構築と推進

と多岐に渡っており、目に見える成果はまだ少ない状態である。

2 実施概要

実 施 日 時	視 察 先	福島県郡山市
平成 27 年 7 月 29 日 (水) 10 時～11 時 30 分	担当部局	文化スポーツ部国際政策課
視察事業名	シティプロモーション事業について	
報 告 内 容	1 視察先の概要 人口 328,860 人 面積 757.20 km² 財政力指数 0.732 2 視察先の特徴 ・安積平野の平坦地を中心に、東西 46.78 km、南北 69.95 km、市街地には阿武隈川が悠々と流れる、水と緑に恵まれた自然豊かな都市。 ・東北新幹線、東北本線、磐越東西線、水郡線、の鉄道網や東北自動車道、磐越自動車道などの高速道路、福島空港に隣接するなど、交通の要衝。	

	3 視察事項について 平成 21 年 3 月に「郡山市シティセールス基本方針」を策定し、各種施策を展開している福島県郡山市のシティセールスの実際。
考 察 (まとめ:市政に活かせると思われる事項等)	①なぜ基本方針を作ったか 各部課が郡山市のPR活動を行ってきたが、統一した方針が存在しなかったため、各事業の連携及び効果的な情報発信については、十分とは言えなかった。魅力ある資源や特徴を生かしながら、市のイメージを確立し、市内外に効果的にPRしていくため。 ②都市イメージの浸透 「東北のウィーン 楽都郡山」というフレーズで都市イメージを前面に押し出し浸透させ、知名度や認知度の向上を目指す。 1970 年、オノ・ヨーコが郡山でコンサートを開催した際、「同じ方向を見て、同じ夢を見よう」と発言したことが「楽都」の源流であり、シティセールスの姿勢である。 ※上田市にはキャッチフレーズがいくつもあるが、市民誰もが知っていて、市外の人も覚えやすく、上田市を象徴的に言い得るフレーズを作るべきと感じた。 ③市長の方針 「世界に向けて郡山を発信せよ」と市長に言われている。 ※「都市間競争に打ち勝つ」という言い方があるが、日本の中で優劣を競うのではなく、「世界に通用する都市にする」、という首長の熱意と先見性が、都市を延ばすのであらうと感じた。 ④ゆるキャラの活用 公認キャラクター「がくとくん」と妹の「おんぷちゃん」がおり、楽器を演奏し、CD も出している。 ご当地キャラ総選挙で全国 5 位になった。 がくとくん誕生 5 年、おんぷちゃん誕生 3 年時に七五三のお祝いを行い、注目された  ※上田市には公認キャラクターがなく、民間でそれぞれ自由に作っているのが乱立しており、「上田市へ行ったらこのキャラに会える」という訴求力のあるキャラクターがない。 キャッチフレーズと同様、上田市のイメージが伝わっていかない一因となっているように思える。 説明員の「ストーリーをつくらないと他都市との差別化はできません」という言葉が印象的であった。

⑤3.11 震災の影響

震災後、風評被害の払拭がシティプロモーションの大きな仕事になった。

市・市民が元気になるよう、積極的にイベント開催している。

新しいイベントを立ち上げたり、B-1 グランプリを引っ張ってきたり、業務的には大変だが、持ちかけられたイベントもすべて受けることにしている。

※風評被害払拭のためとはいえ、地域の人材発掘、地域資源の再発見・再利用、地域おこしなど、災いを転じてシティプロモーションを更に進める原動力とも成り得ていると考えられる。ピンチをチャンスにできるか、地域力が試される場面は上田市も同様であろう。

⑥広告代理店の活用

首都圏向けの広報は「東北博報堂」に 1200 万円の予算で委託している。

BS 朝日の「恋するドライブ」に取り上げられ、3800 万円の経済効果と推計された。

マスコミ対象のプレスツアーを企画。10 社がツアーに参加して訪れ、二次利用などで 30 社が郡山市を記事にした。半年で 4 億 3 千万円の経済効果があったと推計。

※説明員の「自治体が自分でプレスに依頼文などを出していても、何のオファーも来ないだろう」という言葉が印象的であった。営業の素人の職員が無駄な労力と市の予算を使うより、広報のプロフェッショナルに依頼した方が実績としては上がるのが判った。

上田市も広告代理店の活用を考えるべきである。



視察の様子

※視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと

平成 2 7 年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委 員 会 名	総務文教委員会
参 加 委 員	◎池田総一郎 ○半田大介 金子和夫 井沢信章 三井和哉 西沢逸郎 久保田由夫

◎委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

期しくもNHK大河ドラマ「真田丸」放送を来年に控え、多くの観光客が訪れて脚光を浴びる上田城跡であるが、上田城跡公園内から市民会館及び体育施設等の移転が急務である事から、「山形城跡」からの体育施設移転事例を考察する。

2 実施概要

実 施 日 時	視 察 先	山形県山形市
平成 27 年 7 月 30 日 (木) 9 時 30 分～11 時 30 分	担当部局	教育委員会スポーツ保健課
視察事業名	山形市総合スポーツセンターについて	
報 告 内 容	1 視察先の概要 昭和 61 年に「山形市総合スポーツセンター建設基本構想」を策定し、平成 4 年開催の、べにばな国体使用する「前期施設計画」と霞城公園整備関連において実施する「後期施設計画」に分別して、スポーツ施設の整備・充実を図っている。 2 視察先の特徴 べにばな国体開催に伴い大規模なスポーツ施設建設にあたり、山形城跡の整備と併せて新たな用地に総合スポーツセンターを建設。 3 視察事項について 霞城公園内の移転予定のソフトボール・野球・弓道の各施設の現状と、総合スポーツセンターへの移転状況の視察。	

	 視察の様子
考 察 (まとめ:市政に活かせると思われる事項等)	上田城跡公園内の競技施設も移転せねばならない状況の中で、早めに「上田市総合スポーツ建設基本構想」の策定が急務である。平成 36 年頃の長野国体開催が予想される中で、国体開催地決定から整備計画で概ね 10 年の歳月が必要とされる中で競技種目の選定も併せ上田城跡公園内競技施設の移転も同時に進めるべきである。 山形市の施設は総敷地面積 216,000 平方メートルの広大な敷地内に競技施設を集積している為に管理上も効率良く運営されている。上田市に於いては各施設が点在している為に大きな大会やイベントも誘致しにくいのも実情である。兎にも角にも用地・財源と大きな課題であるが P F I や市民公募債等も含め早急な対応が望まれる。  総合スポーツセンター入り口にて

※視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと